

Economic Indicators

発表日: 2020年12月28日(月)

鉱工業生産指数(2020年11月)

～自動車の挽回生産一服を受け11月、12月は足踏み。今後の回復ペースは鈍化する見込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

(単位:%)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
19	1月	▲2.3	0.2	▲1.8	▲0.5	▲0.3	1.4	▲1.7	0.4	▲7.2	▲8.5	2.3	3.6
	2月	1.0	▲0.7	1.2	0.0	0.1	1.3	0.1	1.7	4.3	▲3.5	0.4	1.8
	3月	▲0.5	▲4.1	▲1.1	▲3.9	0.7	0.2	1.1	3.5	▲0.9	▲7.8	▲1.6	▲2.1
	4月	▲0.1	▲0.7	0.7	▲1.1	0.0	1.2	▲1.0	1.9	0.0	▲9.1	2.3	2.9
	5月	1.5	▲1.9	0.8	▲1.6	0.4	1.5	1.3	4.5	2.7	▲3.8	▲1.0	0.1
	6月	▲2.6	▲3.9	▲3.2	▲4.9	0.6	3.0	2.2	6.6	▲2.9	▲5.6	▲2.2	▲2.6
	7月	0.7	0.8	2.5	2.1	▲0.1	2.4	▲0.8	0.8	▲0.2	▲3.1	1.5	3.2
	8月	▲1.7	▲5.5	▲2.0	▲5.0	▲0.1	2.4	2.0	8.7	0.0	▲7.7	▲1.1	▲3.0
	9月	1.9	1.2	1.8	2.1	▲0.9	0.9	▲1.7	1.9	8.1	7.5	1.5	2.7
	10月	▲4.0	▲8.2	▲3.5	▲7.6	0.8	2.5	4.0	9.5	▲10.4	▲13.5	▲5.0	▲5.2
	11月	▲0.6	▲8.5	▲1.4	▲8.0	▲0.5	1.5	1.7	12.3	▲6.5	▲15.9	1.0	▲5.0
	12月	0.2	▲3.7	0.2	▲3.8	0.4	1.2	0.5	6.2	9.2	0.6	▲2.4	▲3.7
20	1月	1.9	▲2.4	0.9	▲3.3	2.1	3.6	▲0.3	9.3	▲1.5	0.3	2.7	▲4.1
	2月	▲0.3	▲5.7	1.0	▲5.4	▲1.7	1.6	▲2.3	9.4	1.0	▲5.7	0.3	▲5.9
	3月	▲3.7	▲5.2	▲5.8	▲6.5	1.9	2.9	8.4	12.6	▲9.1	▲9.3	▲4.6	▲5.8
	4月	▲9.8	▲15.0	▲9.5	▲16.6	▲0.3	2.7	13.6	29.2	1.4	▲7.8	▲11.8	▲19.4
	5月	▲8.9	▲26.3	▲8.9	▲26.8	▲2.6	▲0.5	7.3	40.7	▲9.0	▲21.2	▲3.6	▲23.7
	6月	1.9	▲18.2	4.8	▲16.6	▲2.4	▲3.4	▲7.1	22.5	6.7	▲9.1	4.4	▲14.5
	7月	8.7	▲15.5	6.6	▲16.6	▲1.5	▲4.8	▲8.9	17.6	▲1.0	▲14.4	10.1	▲10.4
	8月	1.0	▲13.8	1.5	▲14.2	▲1.3	▲5.9	▲2.0	13.0	▲8.3	▲21.4	0.0	▲10.1
	9月	3.9	▲9.0	3.9	▲9.8	▲0.5	▲5.7	▲4.4	6.7	2.7	▲22.8	5.3	▲4.0
	10月	4.0	▲3.0	4.9	▲3.0	▲1.8	▲8.1	▲3.3	▲0.9	13.4	▲1.8	2.1	1.6
	11月	0.0	▲3.4	▲0.9	▲3.8	▲1.1	▲8.7	▲1.8	▲1.2	2.6	3.6	▲3.2	▲3.3
	12月	▲1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	1月	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)20年12月、21年1月は、製造工業生産予測調査の数値

○11月の鉱工業生産は前月比で横ばい、自動車の挽回生産一服を受け回復は足踏み

経済産業省より発表された11月の鉱工業生産指数は前月比0.0%となった。11月は経済産業省の補正試算値(同+0.4%)や市場予測値(コンセンサス:同+1.1%、レンジ:同+0.1%~同+2.0%)では上昇が予想されていたが、前月から横ばいと事前の予想を下回った。

内訳をみると、生産用機械工業が前月比+6.5%、汎用・業務用機械工業が同+4.8%と世界経済の回復に伴い設備投資関連の生産が高い伸びをみせたほか、在庫調整の進む電子部品・デバイス工業が同+2.8%など9業種が上昇に寄与した。一方、挽回生産の一服により自動車工業が同▲4.7%と減少に転じたことで、全体では前月比で横ばいとなった。

○21年1月は大幅増産計画も、新型コロナの感染状況悪化により先行きの回復ペースは鈍化

同時に公表された製造工業生産予測指数では、12月が前月比▲1.1%、21年1月が同+7.1%となった。また、予測指数の上方バイアスを考慮した経済産業省の12月の補正試算値は同▲2.3%となった。12月は輸送機械工業で同▲3.6%と2か月連続の減産が見込まれるほか、高めの伸びが続いていた汎用・業務用機械工業が同▲5.3%などと7業種での減産が見込まれる。12月の生産指数の伸び率を経



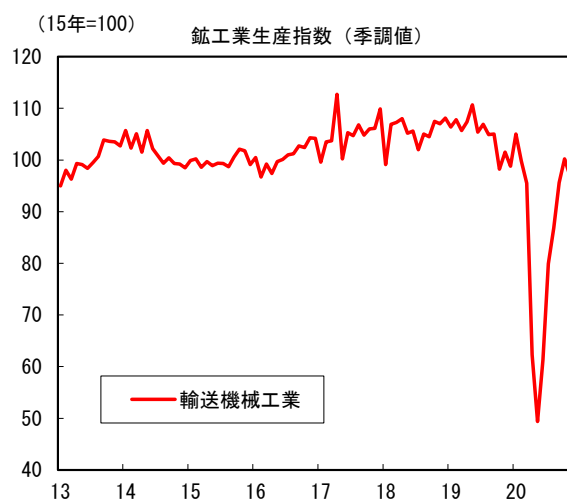
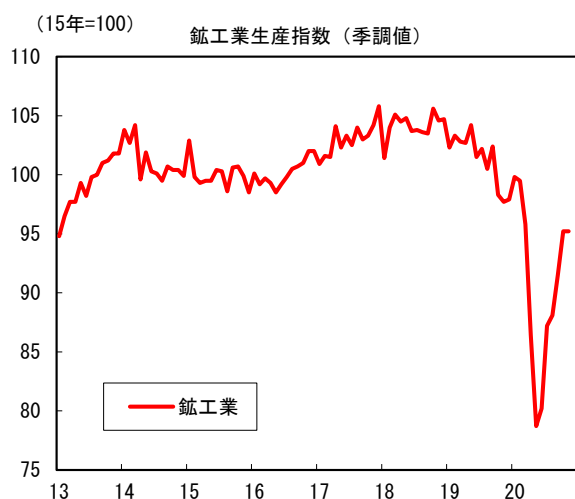
産省の補正試算値で仮置きすると10-12月期は前期比+6.2%と、2四半期連続の増産が見込まれる。もっとも、水準としては20年1月の水準を▲5%程度下回るものとなり、新型コロナウイルス感染拡大前の水準回復にはまだ距離がある状況だ。

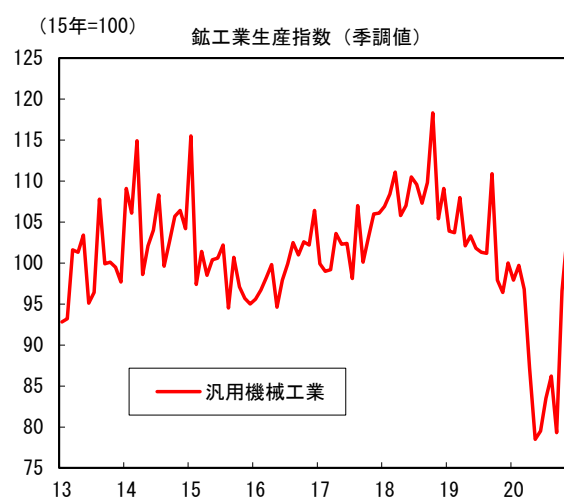
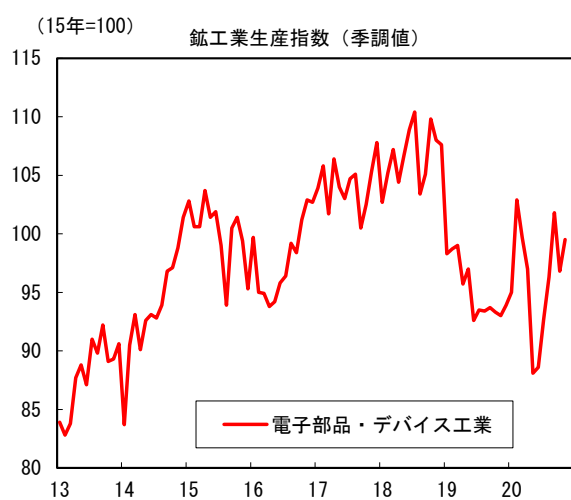
一方、21年1月は大幅な増産計画となった。輸送用機械工業が前月比+4.4%と増産に転じるほか、生産用機械工業が同+12.2%、汎用・業務用機械工業が同+14.0%と高い伸びが見込まれている。また、リモートワーク需要や5G関連需要などから電子部品・デバイス工業が同+15.3%と感染拡大前を大きく上回る水準となることが予想されている。生産計画には上方バイアスが含まれることや調査時期が12月上旬と現在よりも国内外での感染状況が悪化する前であったことには注意が必要であるが、年明け以降も生産の回復基調は続くと思われる。もっとも、新型コロナウイルス感染拡大が続くなか、各国で経済活動制限措置がとられたことや国内での変異種の感染が確認されるなど先行き不透明感は強まっている。国内需要の下押しや輸出の鈍化が見込まれることから、先行きの生産の回復ペースは鈍化が予想される。

○財別の動向

財別では、個人消費関連の11月の消費財出荷は前月比▲3.2%と減少に転じた。足もとで販売動向の一服がみられている乗用車の出荷の減少により、耐久消費財出荷が同▲6.3%と減少したことが主因である。

一方、11月の資本財出荷（除く輸送用機械）は前月比+2.6%と3か月連続の増加となった。世界経済の回復に伴い、資本財の出荷は持ち直しが続いている。もっとも、内容には輸出向けが含まれることには注意が必要だ。業績の悪化や新型コロナウイルス感染拡大による先行き不透明感などから国内企業の設備投資意欲の弱さがみられており、国内の設備投資の持ち直しはあくまで緩やかなものにとどまる見込みである。





(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。